

「日本の、私のいる大館にも来てほしいです。」

中国での一番の思い出は、ホームステイをしたことです。南京市と無錫市の二個所の家に泊まりました。どちらの家でも私たちのことを温かく迎えてくれました。一番心配していたのが言葉が通じないことでしたが、みんな世話好きでとても優しくしてくれたので、不安が少しやわらぎました。中国の中学生は私たちよりも英語ができてびっくりしました。やはり国際交流では、英語がすごく大事だということを強く感じました。私をもっと英会話ができれば、心か

ら分かれあえもつと楽しいものになったのではないかと少し残念です。優しい気持ちや思いやりなどは心にしみ伝わってきましたが、私自身の気持ちに相手に本当に分かってもらえたか心配です。

中国の中学生はすごかったです。馬頭琴のような古典的な楽器の演奏や舞踊などはとても素晴らしいものでした。社交ダンスや私たちのなじみのある曲なども工夫されていて楽しかったです。言葉が通じなくてもスポーツを通して

「家族に会うとその緊張は消えてしまいました。」

私は秋田県高校生海外研修に参加しました。参加した目的は、はじめは英語を習得することでした。しかし研修の間、もっと大きなことに気が付きました。それは、異なる土地、社会、価値観、それらの上に立つ人に触れたことです。かなり戸惑ったこともありましたが、その中で、自分の英語力の未熟さにも気が付きました。自分の伝えたいことが表現できない、相手の伝えたいことが聞けなくて理解できない。でも、そのことで会話能力を向上させようと一層思えたと



ホストファミリーと

今年度の国際交流研修体験記から

夏休みにアメリカミネソタ州へ24日間

岩澤 正志さん(大館鳳鳴高校二年)



ホームステイ先の家族と(左から2番目が紗希さん)

8月に中国へ7日間

澤口 紗希さん(第一中学校一年)

して心の交流ができたと思います。たった一週間の交流でしたが、片言の英語でホームステイ先に二人の友達ができました。ずっと友だちでいたいと思います。また中国に行きたいと思います。そして日本の、私のいる大館にも来てほしいです。

最後に、貴重な経験の機会をくださった多くの方々に感謝の気持ちで一杯です。一生忘れることなく私自身にも、また社会的にも役立てていきたいと思っています。

努力もできました。そして、少しでも自分が成長したと思えると、とてもうれしくなりました。

研修の中でも、最も印象が強いのはホームステイでした。二泊三日の短い間でしたが、アメリカの家族と共に生活できたことはすばらしいと思えました。

ホストファミリーと会う日は緊張しっぱなしでしたが、その家族に会うとその緊張は消えてしまいました。それぐらい友好的な家族でしたが、一日目は自分から多く話せませんでした。

した。二日目に湖で泳いだり、一緒に食事をするうちになれて、夜には積極的に話せたとし、ホストファミリーもよく聞いてくれてとても良かったです。三日目の別れのときはとても悲しくなりました。こんな気持ちは初めてでした。

この研修で国際的視野が広がりました。でも、私はもっと国際交流がしたいです。この研修はそのきっかけになりました。この体験を今後自分にどう生かせるか、それが私の課題です。